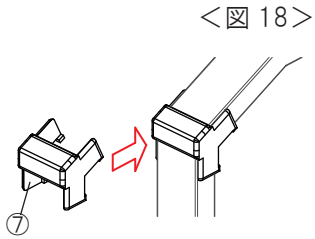


取付け方法②

10. <図 18>の様に⑤脚ステーに⑦外突カバーを被せながらはめ込みします。



11. 取付け終了後、①サイドフレームを上下左右に揺すり、ガタツキが無いことを確認してください。ガタツキがある場合は再度取付けをやり直してください。

△注意 — キャリアを取付け後、初期段階では走行によるユルミ、ドアの開閉によるユルミが発生します。必ず定期的に増し締めを行い状態をご確認してください。

日本国内使用専用について

●本製品は、日本国内使用専用となります。海外（他国）使用により発生した際の品質保証は一切お受けいたしておりませんのでご注意ください。（対外規格は取得しておりません）
また万一の事故、損害等のあらゆる責務に対しても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承願います。

シグナルマークについて

●シグナルマークは危険のレベルを表します。
それぞれのマークの内容をよくご理解頂いた上で、必ず記載の注意事項を守ってください。
△危険—取扱いを誤った場合に、死亡、重傷の危険が発生します。
△警告—取扱いを誤った場合に、死亡、重傷の危険が発生する可能性があります。
△注意—取扱いを誤った場合に、軽傷を負うか、物的損害を負う危険が発生する可能性があります。

取扱い上の注意

△注意 1車両当り最大積載重量（50kg）を守り、過積載は絶対に行わないでください。
→過積載をしますと、脱落や破損だけでなく車両の変形、積載物落下等の原因になります。
△注意 キャリア取付後、初期ユルミが発生しますので、定期的に各締め付け部にユルミが無いか点検してください。
→締め付け部にユルミがあると、思わぬ脱落事故を起こします。
△警告 本製品の改造は絶対に行わないでください。本製品の改造による事故責任は一切負いかねますのでご了承下さい。
【例】・部品類の穴あけ及び溶接。 ・本製品以外の部品による組立て及び部品交換。
△警告 部品不足での使用は絶対に行わないでください。

部品交換について

● 部品を破損、紛失された場合は、ご使用の品番及び「本書」の構成パーツ表の各部品名にてお買い求めの販売店または弊社までお問い合わせください。

事故が起きた時は

製品の欠陥等により万が一事故が発生した場合は、速やかに販売店または弊社までご連絡ください。
事故対応をスムーズに行うためにも、お客様に以下のことをご用意して頂く必要があります。
（1）事故製品の確保：事故発生時のままの状態のもの（製品をバラバラにしない）
（2）損 害 の 内 容：損害を受けた現物、また損害を証明できるもの
（3）事故発生状況：日時、場所、事故発生状況、公共機関への届出（事故、紛失届）（いつ、どこで、何が、どのように）
*お客様の誤った組立て、取付け、使用による事故等の責任は一切負いかねますのでご了承下さい。

Rocky+ SINCE 1946 ロッキープラス株式会社

〒463-0025 名古屋市中山区元郷2-107 TEL (052) 778-7876 FAX (052) 778-7718

HP <https://www.rocky.ne.jp>

E-mail rocky@rocky.ne.jp

Rocky work tool

RW-Tシリーズ 取扱い説明書

【スズキ・マツダ・日産・三菱】DA16T、DG16T、DR16T、DS16T
【ダイハツ・トヨタ・スバル】S500（P、U、J）、S510（P、U、J）
【ホンダ】HA8、HA9

品 番／RW-T10S、T10L 〈軽トラキャリア・ショート、ロング〉

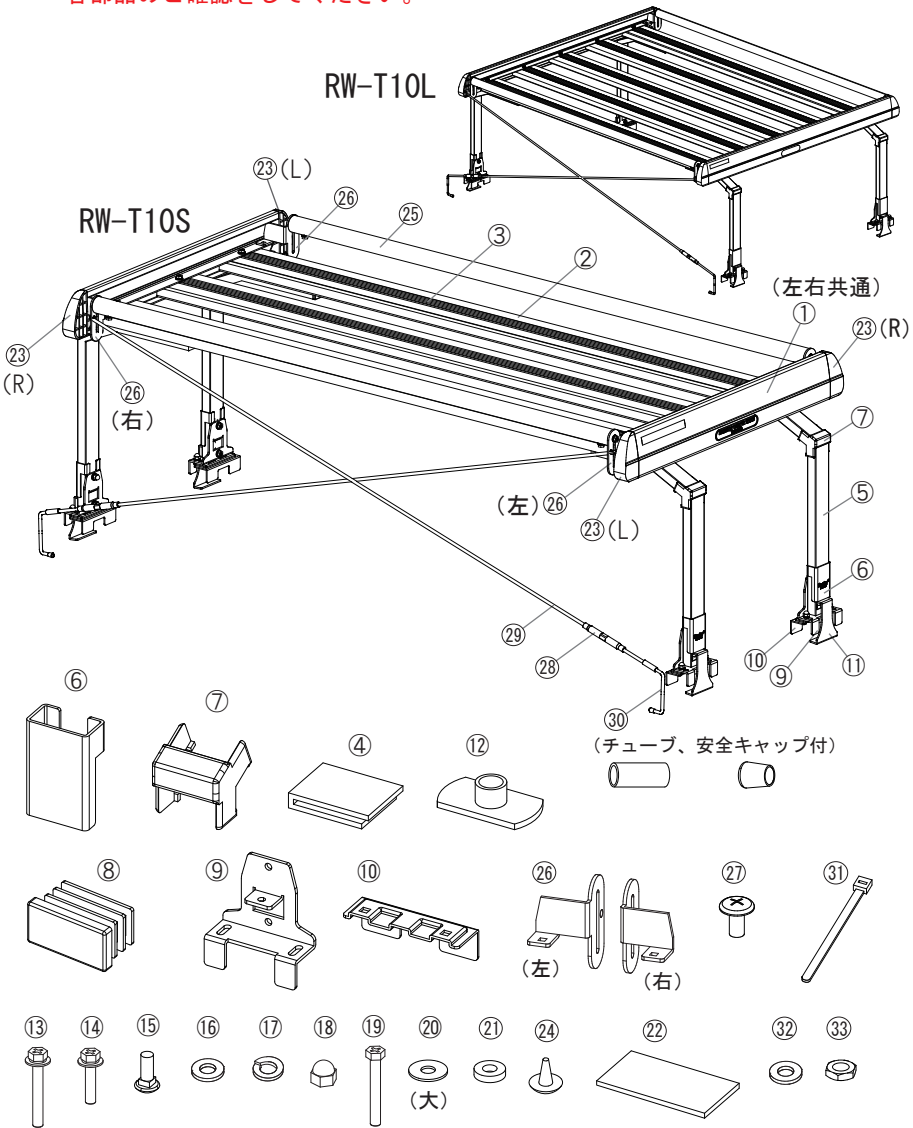
この度はロッキーワークツール「RWシリーズ」をお買い上げいただきありがとうございます。
常に安全な状態で、ご使用して頂く為に「取扱い説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。
尚、販売店にて本製品を取付けられましたら、本書を必ずお客様にお渡しください。
製品（組立て、取付け等）についてご不明な点は、お買い求めの販売店又は弊社までお問い合わせください。
誤った組立て、取付け、使用による事故等の責任は一切負いかねますので、ご了承ください。

ご使用前に

●本製品は、車種別の“軽四トラック専用”となります。
取付けを行う車両が上記に該当しているかの確認を行ってください。他の車種には取付けできません。
●後方のゲート（ガード、あおり）を開けての走行は絶対に行わないでください。
●ゲート（ガード、あおり）が「変形」「破損」「ガタツキ」などがある場合は取り付けをしないでください。
●本製品の取付けには「ドライバー（＋）」「スパナ10mm」「マスキングテープ」「物差し（コンベックス）など」「マジック」をご用意していただきますようお願いいたします。

構成パーツ

●構成パーツは検査済みですが、必ず組立てを行う前に、各部品のご確認をしてください。

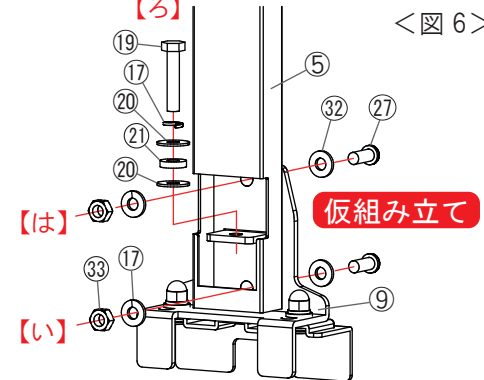
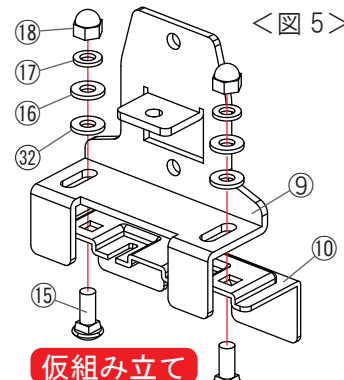
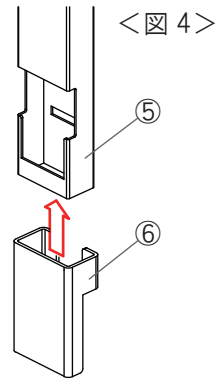


No	部品名称	数量	
		RW-T10S	RW-T10L
①	サイドフレーム	2	2
②	荷受けフレーム	3	5
③	フレームラバー	3	5
④	コの字ラバー	12	20
⑤	脚ステー	4	4
⑥	脚ステアカバー	4	4
⑦	外突カバー	4	4
⑧	脚ステー栓	4	4
⑨	脚ステーベースA	4	4
⑩	脚ステーベースB	4	4
⑪	締め上げフック	4	4
⑫	T 型ナット M6	8	8
⑬	六角ボルト M6×35 P=3	8	8
⑭	六角ボルト M6×20 P=3	10	14
⑮	角根ボルト M6×12	12	12
⑯	平座金 M6-13	12	12
⑰	パネ座金 M6	24	24
⑱	袋ナット M6	12	12
⑲	六角ボルト M6×35	4	4
⑳	平座金 M6-16（大）	8	8
㉑	ゴムパッキン	4	4
㉒	保護シート	4	4
㉓	先端キャップ（R・L）	各2	各2
㉔	タッピングビス 5ミリ	4	4
㉕	前後パイプ（ナット付）	2	2
㉖	前後パイプ金具（右・左）	各2	各2
㉗	トラスボルト M6×12	8	8
㉘	ターンバックル M6	2	2
㉙	筋交い（長）	2	2
㉚	筋交い（短）（チューブ付）	2	2
㉛	結束バンド	1	1
㉜	ナイロンワッシャー	24	24
㉝	六角ナット M6（三種）	8	8

組み立て方法①（図は主にRW-T10Sです）

ポイント：ネジの締付け量はパネ座金が閉じてから90度の増し締めです。必要以上に締めると折れる為、ご注意ください。

- ＜図1＞の様に②荷受けフレームに③フレームラバーを通し、
2本だけに⑫T型ナット M6 を4個ずつ通します。
- ＜図2＞の様に②荷受けフレームに④コの字ラバー（長い方を上）
を左右の両端に差し込みします。
- ＜図3＞の様に①サイドフレームに②デッキフレームを
押し込み、⑭六角ボルト M6×20 P=3 にて片側ずつで組み立てします。
その時、⑫T型ナット M6 付は⑤脚ステーを固定するため両端に組み
込みします。
- ＜図4＞の様に⑤脚ステーに⑥脚ステーカバーを通します。
- ＜図5＞の様に⑨脚ステーベース A と⑩脚ステーベース B を
⑮角根ボルト M6×12、⑳ナイロンワッシャー、⑰平座金 M6-13、
⑱パネ座金 M6、⑲袋ナット M6 にて⑩脚ステーベース B が動く程度で仮組み立てします。
- ＜図6＞の様に⑤脚ステーと⑨脚ステーベース A を【い】・【ろ】・【は】の順番で仮組み立てします。
【い・は】 ⑳トラスボルト M6×12、⑳ナイロンワッシャー、⑱パネ座金 M6、㉑六角ナット M6。
【ろ】 ⑲六角ボルト M6×35 に⑱パネ座金 M6、㉒平座金 M6-16、㉓ゴムパッキン、㉒平座金 M6-16 を組み込み、通します。



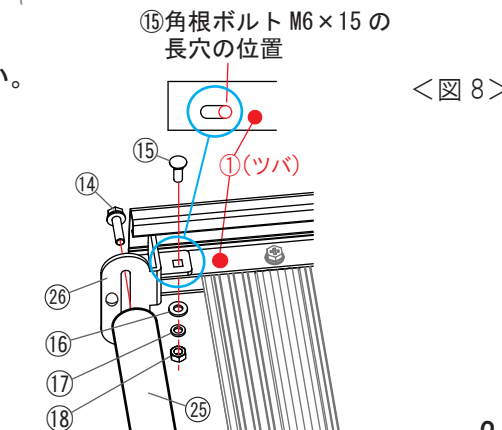
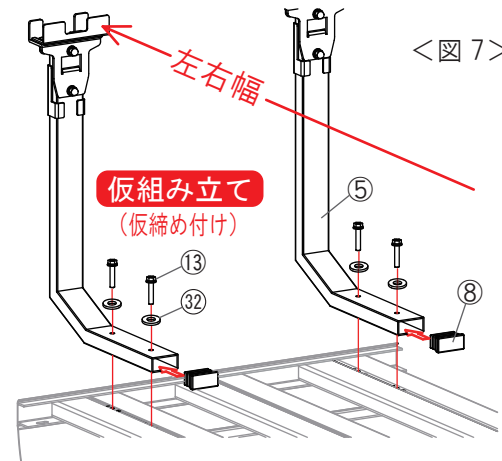
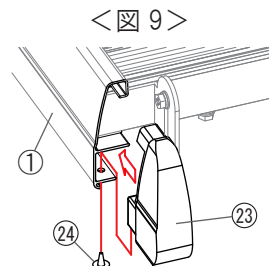
- ＜図7＞の様に⑤脚ステーに⑧脚ステー栓を打ち込みします。
- ＜図7＞の様に⑤脚ステーに⑬六角ボルト M6×35 P=3 に
⑳ナイロンワッシャーを通し、⑫T型ナット M6 にて仮組み立てをします。

ポイント
・左右幅の調整ができる程度の締め付けがベストです。

- ＜図8＞の様に①サイドフレームのツバ長穴の上に
㉔前後パイプ金具（右・左）を載せ、⑮角根ボルト M6×12、
⑰平座金 M6-13、⑱パネ座金 M6、⑲袋ナット M6 にて左と右を固定します。
その時、長穴の固定位置に注意してください。

- ＜図8＞の様に ㉔ 前後パイプを⑭六角ボルト M6×20 P=3 にて
2本を固定します。
その時、必ず、前方側（キャビンのガラス側）は上部に固定してください。

- ＜図9＞の様に①サイドフレームに
㉕先端キャップを4箇所差し込み、
㉖タッピングビス 5 ミリで固定します。



取付け方法①

- ゲート（3方）を車両のレバーにて閉じます。
ゲートの上部の『チリ・油膜』などを取り除いてください。

- ＜図10＞の様に ㉗ 保護シート位置にマーキングをしてから貼ります。
・RW-T10S の場合『160+376 ミリ』
・RW-T10L の場合『160+800 ミリ』

ポイント
・純正品のゲートカバー付きの場合は、㉗ 保護シートを使用しません。
ゲートカバーの上に脚部を直接載せます。

- キャリア（本品）をゲートのマーキングの位置に載せます。

ポイント
・載せる作業は二人以上で行ってください。
キズやケガの防止に効果的です。

- ＜図11＞の様に⑨脚ステーベース A と⑩脚ステーベース B を
ゲートの幅に押し付けて、⑲袋ナット M6 にて固定します。
（純正品のゲートカバー付きの場合は、そのまま挟みます。）

- 組み立て方法①：No.8 項の仮締め付けボルト

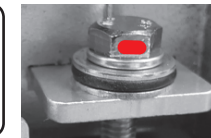
＜図12＞の様にキャリア枠に対して、⑤脚ステーの出っ張り具合を
ほぼ左右均等に調整し、キャリア枠を中央にします。
左右の均等後、⑤脚ステーの仮締め付けの⑬六角ボルト M6×35 P=3 を
10 ミリのスパナにて締め過ぎに注意して本締めします。

- 組み立て方法①：No.6 項の仮締め付けボルト

＜図13＞の様に⑩脚ステーベース B の両端が傾きで隙間のないことを確認後に
㉗ トラスボルト M6×12 をドライバー（+）とスパナ 10 ミリにて本締めします。

- ＜図14＞の様に⑪締上げフックと⑲六角ボルト M6×35 を指先にて
数回転ねじ込み、支えながらスパナ 10 ミリで締上げします。
締上げ量は【⑱パネ座金 M6 が閉じた頃から2回転】です。

ポイント
・⑲六角ボルト M6×35 にマーキングをして、
2回転を正確に行い、㉓ゴムパッキンを
半分ほどに潰します。



（㉓ ゴムパッキンの潰れ具合）

- ＜図15＞の様に ㉔ 前後パイプ金具（右・左）の穴に ㉔ 筋交い（長）の
L型先端を通し、引っ掛けます。先端の向きは問いません。

＜図16＞の様に ㉔ ㉔ 筋交い（長・短）に ㉔ ターンバックル M6 を
組付けします。
その時、「左ねじ・右ねじ」に注意してください。

- ＜図17＞の様に ㉔ 筋交い（短）をゲートの平な面に引っ掛け、
指で支えながら ㉔ ターンバックル M6 を「左まわし」にて
手締め又は 10 ミリのスパナでガタツキのない程度に締上げします。

ポイント
・締上げ量は、「筋交いが、ガタツキのない程度」で十分です。
必要以上に締上げると ㉔ 前後パイプ金具や ㉔ 筋交い（短）が
変形し、効果がありません。

＜図17A＞の様に筋交いの重ね（クロス）の所に㉕結束バンドで、
カタカタ音を止めます。

（4 ページにつづく）

